

平成 2 6 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	環境建設委員会			
参 加 委 員	古市順子	○深井武文	佐藤論征	松尾 卓
	原 栄一	尾島 勝	南波清吾	
委員長、○副委員長				

1 上田市での課題と視察の目的

上田広域連合の資源循環型施設建設は、上田市にとっても重要課題である。市では昨年 1 1 月に専門部署を設置したが、なかなか進まない状況である。先進施設を視察し、特に、地元との合意形成にどのように努力されたか伺い、参考としたい。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	東京都調布市
平成 26 年 7 月 23 日 (水) 10 時 ~ 11 時 30 分	担当部局	クリーンプラザふじみ
視察事業名	「クリーンプラザふじみ」の施設整備及び運営について	
報 告 内 容	1 視察先の概要 組織市：三鷹市(16.5 k m²、18 万人)調布市 (21.5 k m²、22 万人) 設備形式：全連続燃焼式ストーカ炉 焼却能力：288 トン/日(144 トン/日 × 2 炉) ごみ処理施設棟、敷地面積：地上 5 階、地下 1 階 26,289 m² 煙突：鉄筋コンクリート、高さ 100 メートル 竣工：平成 2 5 年 3 月 (着工 2 2 年 8 月) 余熱利用設備：蒸気タービン(9,700 k W)場内給湯、場外温水供給 総事業費：101 億 6400 万円 2 視察先の特徴 ・ごみの完全燃焼 ・周辺環境に配慮した施設 ・システムの自動化 ・余熱の有効利用 3 視察事項について ○地元との合意形成など、施設建設に至った経過 平成 11 年 8 月 三鷹市・調布市「新ごみ処理施設整備に関する覚え書き」を交わす。 平成 13 年 7 月 「新ごみ処理施設整備基本計画素案報告書」説明会 平成 14 年 1 月 ~ 16 年 3 月	



	「新ごみ処理施設整備基本計画検討委員会」設置 委員：市民 20 名（「場所を含めて検討しましょう。」ということ とで有力な市民複数入る）学識者 3 名、職員 4 名 内容：委員会 15 回、勉強会 20 回、施設見学会 8 回、アンケート、シンポジウム 2 回 平成 16 年 3 月「新ごみ処理施設整備基本計画検討委員会」答申 建設候補地は 6 か所から 14 項目で絞り込みを行うこと 平成 17 年 10 月「新ごみ処理施設整備基本計画の策定に係る建設候補地選定報告書」説明会【7 回】 平成 17 年 12 月「新ごみ処理施設整備基本計画素案」説明会（7 回） 平成 18 年 1 月 素案に対するアンケート実施（3,000 名） 平成 18 年 11 月～25 年 3 月 「ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会」設置 委員：市民 12 名、学識者 2 名 所管事項：施設建設（煙突の高さ、焼却炉の炉数等）環境影響 評価、コミュニティ機能 内容：委員会 34 回、施設見学会 6 回 平成 20 年 2 月 「新ごみ処理施設整備実施計画案」 説明会（4 回）パブリックコメント 平成 21 年 11 月～現在 「ふじみ衛生組合地元協議会」設置 委員：市民 25 名（敷地境界から 500m）職員 7 名 協議事項：地域環境保全、公害防止対策、交通安全、情報公開、施設に異常が発生した時の措置 他 内容：協議会 36 回 施設見学会 4 回 平成 22 年 2 月 「新ごみ処理施設建設工事に関する工事協定書」締結 平成 24 年 10 月 「新ごみ処理施設に係る環境保全に関する協定書」締結
考 察 （まとめ：市政に活かせると思われる事項等）	○委員会、検討会、協議会はすべて公開で行っており、傍聴者には委員と同様の資料が配布される。傍聴者の意見回収も行われ、委員に届くシステムとなっている。会議録はホームページで公開されている。 ○新ごみ処理施設整備は、平成 11 年 8 月の覚書締結から工事着工まで 11 年の歳月を要したが、市民との協働の取り組みと積極的な情報公開により、市民との信頼関係が少しずつではあるが、確実に深まり、市民の理解を得ることができた。 ○上田市では候補地選定がうまくいかなかった経過があり、市民との信頼関係を築いていくことは容易ではないが、誠実な話し合い、市民を中心とした検討の仕組みづくり、積極的な情報公開がカギだと考えられる。



平成 2 6 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	環境建設委員会			
参 加 委 員	古市順子 原 栄一	○深井武文 尾島 勝	佐藤論征 南波清吾	松尾 卓

委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

今世紀初頭から急速に加速化しつつある人口減少、地域の過疎化は、背景に少子高齢化、核家族化、大都会への一局集中などが主な要因として上げられるが、一方で地方都市と市町村部において過疎化の進行と共に活力の減退を生み出し、空き家、空き地、荒廃農地などが増加し、大きな行政課題となっており、空き家、空き地バンク制度化した小樽市の先進事例を視察の目的とした。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	北海道小樽市
平成 26 年 7 月 24 日 (木) 13 時 30 分 ~ 15 時	担当部局	建設部まちづくり推進室
視察事業名	空き家、空き地バンク制度について	
報 告 内 容	1 視察先の概要 小樽市は現在、人口 127,224 人 (平成 25 年) 世帯数 66,364 であるが、平成元年の人口 166,579 人世帯数 63,226 から大幅な激減となり、なお人口減が進み、札幌市への一局集中化が傾向として見られる。 かつて、北海道開発の拠点の港湾都市として、また、物流とニシンなどの漁港として、道の経済拠点の役割を果たしてきたが、現在は小樽運河などを中心とした観光依存の地方都市の特徴となっている。 2 視察先の特徴 人口動態において、平成元年比 39,355 人の大幅減少で、平成 25 年には 127,224 人という経過をたどる中で、若年人口の流出、少子化の進行により空き家、空き地が急増してきたものである。かつて、北海道の海の玄関口といわれた小樽港により、繁栄した面影を街中に残しながら、観光を中心としながら振興の糸口を探っている状況である。	



	3 視察事項について ○ 空き家、空き地バンクの制度の目的と概要、制度の特徴 ○ 空き家、空き地バンク制度の活用状況と捉えている課題
考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	小樽市が平成 21 年から制度化、スタートした空き家、空き地バンク制度は、行政が情報提供し、実質的な空き家、空き地の斡旋による有効活用の事業については、市内の登録された民間の不動産業への委託した施策として実施され 6 年目をむかえている。 この間 133 件の空き家の契約が成立し、一定の成果を上げているが、即入居というスムーズに十分な成果には至っていない一面を見せている。 その理由は、若年層世帯の場合、大きな課題としては働く場が確保されない為に転入移住が速やかにできないという課題である。 空き地対策も同様に買い求めても、用途に展望がないため壁にあたっている。 一方でさらに人口減少が進む中でさらに増え続ける空き家、空き地、また老朽化による危険住宅、荒廃地の拡大などが進み、管理の対策が追いつかないという苦悩する対策の一面を見た。 この対策は、当上田市においても今後の対策として、やはり市の経済の振興、雇用環境改善対策と並行して取り組まないと実効が上がらないという教訓がこの視察を通して得られた。



平成 2 6 年度 委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成)

委 員 会 名	環境建設委員会			
参 加 委 員	古市順子 原 栄一	○深井武文 尾島 勝	佐藤論征 南波清吾	松尾 卓

委員長、○副委員長

1 上田市での課題と視察の目的

上田市には、324の公園がある。市民に身近な公園管理は市民との協働が不可欠である。また公園の改修に当たっては市民の声を反映することが必要である。先進市を視察し参考としたい。

2 実施概要

実 施 日 時	視 察 先	北海道江別市
平成 26 年 7 月 25 日 (金) 9 時 30 分 ~ 11 時 30 分	担当部局	建設部都市建設課公園係
視察事業名	公園アダプト制度について 市民参加による公園づくり事業について	
報 告 内 容	1 視察先の概要、特長 石狩平野の中央に位置。1878年屯田兵入地により誕生。豊かな自然環境を有する。5大学、道立図書館、公的、私企業の研究機関が集積する文教都市であり、産学官連携のまちである。 人口120,197人 面積187.57km²(26年4/1現在) 人口密度 約644人 高齢化率 22.18% 2 視察事項について (1) 江別市の公園の概況 ・公園数 230 (うち、街区公園180) ・市民一人当たり公園面積16.52m²(全国9.9m²) ・小さな公園が多く、大きな公園が少ない。理由は公園の約70%が土地区画整理事業や小規模な宅地造成事業等によって整備されたことによる。自治会数162だが、各自治会に1~2の公園が、もれなく整備されている。 (2) 公園アダプト制度について ・アダプト制度とは、市民と行政が協働で進める「まちの美化プログラム」で、自治会やNPO、企業などが公園や道路の里親となり、定期的、継続的に清掃活動を行い、行政がこれを支援する仕組みのことである。 ・江別市では、公園のありかたとして、公園愛護 市民協働 公園管理費縮減の観点から平成14年度から導入した。 ・アダプト制度の概要	

参加要件：市内の団体であること

参加手続き：初回に「公園管理申出書」を提出

作業期間：4月1日～11月30日

作業内容：園内清掃、砂場清掃、施設の故障の連絡、落書き・汚れ除去、トイレ清掃等(公園清掃マニュアルにより実施)

市の支援：ごみ袋・耗品の支給、保険適用、市のホームページによる公表、花苗・客土の支給、アダプトプログラムの標識設置【この公園は〇〇自治会が協力してきれいにしています】

・アダプト団体

参加団体数 35(自治会 21、高齢者クラブ 10、企業 3、他 1)

参加団体数推移 平成 14 年 5 26 年 35

契約公園数推移 平成 14 年 14 (6.1%) 平成 26 年 78(34%)

目標公園数 80(平成 30 年度 約 3 分の 1 の公園を目指す)

・アダプト制度の事業効果

経費削減効果 アダプトによる作業経費と、それを業者に委託した際の経費の差は、年間 164,050 円である。



公園愛護等の効果

市民と行政のパートナー意識が芽生えた。

地域コミュニティの拡大がみられる。

公園への愛着心の向上がみられる。

・アダプト制度の課題

各種手続き、物資支給等の支援に関する手間の増加

清掃作業の質のばらつき

自治会役員の交代による管理意識の変化(積極的 消極的)

自治会内での担い手不足による活動の縮小化

活動状況の把握が職員体制的に限界(3名)

(3) 市民参加による公園づくり事業について

・公園全体の見直しが必要で、地域から修繕の要望の多い身近な公園(街区公園)については、平成 2 年度から再整備工事实施(29 公園)

・再整備の計画づくりは地域の皆さんの意見を伺いながら、ともに公園を考える「市民参加による公園づくり事業」を進めている。

・地域の町内会や小学校と連携し、遊びの主役である子どもたちとワークショップを行いながら計画をつくる。毎回 30 人前後の子どもたち、町内会の皆さんなど参加して、たくさんのアイデアを出し合い、楽しみながら公園のあり方を考える。(ファシリテーターは造園コンサルタントに依頼)

・ワークショップの流れ

	第1回ワークショップ クイズ「今の公園を知っているかな？」 意見交換「どんな公園にしたいかな？」 第2回ワークショップ チーム名を皆で考えよう。(プレートに刻んで公園に設置) 予算に合わせて買い物ゲーム(限られた予算でどんな遊具や施設を選ぶかを考える) 第3回ワークショップ 意見交換「こんな公園になりそう」 「記念レンガ」のデザインを考えよう。(江別市はレンガのまち、子どもたちが作ったレンガを園路に設置する。) 第4回ワークショップ 公園の完成予想図はこれだ。 最後に記念レンガを作ろう。 いよいよ公園が完成 完成式 記念レンガの設置 チーム名の入ったプレートを設置 地域みんなで花壇づくり
考 察 (まとめ:市政に活かせると思われる事項等)	○公園アダプト制度についての事業効果は、経費削減効果は大きくはないが、市民協働、公園愛護の点で優れた取り組みである。一方課題もあり、目標公園数が限界かと思われる。 ○市民参加による公園づくり事業は、子どもたちが主役のワークショップで、記念レンガ、プレートも設置しすばらしい取り組みである。 ○上田市でも、公園管理は自治会が担っていただいているところが多いが、標識設置等このような制度化も参考になると考える。 また、公園づくりも地元の皆さんの声をお聞きしているが、子どもたちが主役で街区公園整備をしていくことは、今後計画的に取り組んでいくべき課題だと考える。 